

特集
Special Contents

自然災害への対応

今、そしてこれから、
シチズンにできること

01



災害対応の基本は、第一に人命の安全確保、次に被害をいかに少なくするかということです。シチズングループとしては、事業形態・規模、地域性を考慮した各社の対策とグループ共通課題の対策に分けて有効な活動につなげていきたいと考えています。

東日本大震災への シチズングループの対応

震災から立ち上がり、そして立ち向かうために

東日本大震災が発生した直後の福島県相馬郡新地町にあるシチズン東北相馬事業所では、すぐに従業員に帰宅指示が出されました。その直後に津波が襲来し、同事業所はかろうじて浸水を免れたものの、多くの従業員の自宅がその被害を受け、避難所での生活を余儀なくされました。

熊谷社長(当時)より「震災に負けず、一日も早く工場を復旧させ、仕事の場をしっかりとつくること、被災地の支援になる」と送られたメッセージは、震災の被害に打ちひしがれていた従業員の心を奮い立たせ、出社することすら困難ななか、それでも復旧に向けて動き出しました。

大地震を想定した事前対策が功を奏す

事前に導入していた地震対策がうまく機能したこともあり、操業に不可欠な金型や重要な生産設備は損壊を免れました。プレス機など特に大型の生産設備は、地面の基礎部分に固定しており、ほとんど被害がなく、同じフロアにあった完成品や仕掛かり品が倒れただけで済みました。

このように主要な設備の地震対策が万全だったのは、シチズン東北が「30年以内に宮城県沖を震源とする巨大地震が起きる」という前提に立っていたからです。相馬事業所では、1978年に発生した宮城県沖地震で、棚から多くの物が落下するなど大きな被害が発生しました。そのため、金型や生産設備などを中心に落下・転倒対策を入念に行っていました。その結果、震災から2週間足らずで生産を再開することができました。

今後の課題として真っ先に挙げたのは、従業員やその家族の安否確認です。確実な安否確認を行うために、既にグループ35社へ導入している安否確認システムを日頃の訓練に取り入れるようにしました。

災害を教訓に更なる強化体制をつくる

今後はこの震災で浮かびあがった課題を整理した上で、あらゆる災害や異常事態を想定した事業継続計画(BCP)を推進していきます。今回の経験を活かし、避難手順や部材調達など、さまざまな面において机上の空論ではないBCPを具現化していきます。



被災地支援

シチズングループは、この地震による被災者の救済および被災地の復興に役立てていただくため、義援金1億円を日本赤十字社を通じて、また、CITIZEN WATCH CO. OF AMERICAから米国RED CROSSを通して5万ドル寄付するとともに、さまざまな活動を通して、被災された方々の力になれるよう取り組んでまいりました。

スポーツを通じた支援活動

シチズン東北相馬事業所がある新地町にて、グループ卓球交流会を開催しました。東日本大震災の被災地復興を願って、「がんばろう相馬!」をスローガンに、日本リーグ1部所属の卓球部選手5名が被災地を訪れました。

会場には福島県宮城県の小・中学生が集まり、選手とのサーブ・スマッシュの打ち合いや、卓球指導、スピード感あふれる選手同士の模範試合の観戦などをしていただきました。スポーツを通して被災地に元気を届けられたのではないかと思います。

未来を担う、子供たちの笑顔のために

シチズングループでは被災地の子供たちにアートプログラムを届ける活動をしているARTS for HOPEと、岩手県沿岸部で壊滅的な被害を受けた図書館の代わりとなり仮設住宅を中心に巡回して本の貸し出しをしている「いわてを走る移動図書館プロジェクト」(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)への支援を行っています。

グループ従業員への呼びかけにより、絵の具、クレヨン、スケッチブックなどの画材をダンボール箱30個分と、新品同様の書籍2077冊を集め、それぞれの団体へ寄贈しました。

働ける喜びを提供

震災により職を失った方々への支援として、シチズン平和時計では2011年6月より延べ7名の避難者を受け入れ、「仕事があるという心の安定」を提供しました。

福島県南相馬市の桜井市長より「素晴らしいご支援に感謝している」という旨のお礼の言葉もいただき、シチズン平和時計の川口社長(当時)からも継続した就労支援を約束しました。同様に、シチズン時計ミヨタにおいても被災地からの雇用受け入れを行っています。



南相馬市桜井市長(右)とシチズン平和時計の川口社長(当時)



シチズングループの従業員から多数の本が集まりました。





海を超えた「絆」

— 音楽を通して被災者の心を癒す —

イタリアから新地町へ 音楽でつなぐ明日への希望

シチズン時計のグループ会社であるCITIZEN WATCH ITALYとCITIZEN WATCH EUROPEは、東日本大震災の復興支援として、グループ会社のシチズン東北相馬事業所のある福島県相馬郡新地町の小・中学校に鼓笛隊用楽器、クラリネット、ホルン、ハーブなどの吹奏楽用楽器を合計453点寄贈し、贈呈式とあわせて記念コンサートを開催しました。

2009年4月、イタリアを襲った「イタリア中部地震」。その際、シチズン時計は復興支援として、イタリアのラクイラ地方の小学校にパソコンを寄贈しました。東日本大震災発生直後、CITIZEN WATCH ITALY のダンテ・グロッシ社長から「恩返しに、日本の子供たちへ国を超えた社会の温かさや夢を伝える直接的な支援がしたい」という申し出がありました。

新地町は、震災の津波により町の20%が浸水し、578世帯の住宅が被災し、死者・行方不明者110名を超える大きな被害を受けました。このような状況において、未来を担う子供たちに困難に負けない強い心と、音楽を通じて心の安らぎと明日への希望を感じてもらいたいとの想いから、楽器の寄贈と記念コンサートを開催しました。また、今回寄贈した楽器が、ほかの復興イベントなどで、被災者への力強いメッセージの発信を担い、この「想い」が繋がっていくことを願っています。



「世界中の人がこの東北の地で起きたことを目撃しました。皆さんは、途方もない勇氣と自制心と、そして大きな情熱をもって、自然の破壊的な力に向き合い、新たな力と決意をもって生活を再び始められました。ご両親は恐ろしい苦しみに出会いながら、人間の尊重とは何かということを示されました。シチズンウォッチイタリアの従業員を代表して私の国からささやかな贈り物をもってまいりました。それらは皆さんが今必要とされているものに比べれば、本当に小さなものに過ぎませんが、それらが皆さんが決して孤独ではないこと、皆さんのことを賞賛している人間がいることを思い出すものになってくれればと思います。」

Message From Dante



タイ洪水への対応

— 被災した従業員への支援 —

タイで2011年に発生した大洪水により、ROYAL TIME CITI(RTC)、CITIZEN MACHINERY ASIA(CMA)は、工場内への浸水被害はなかったものの、従業員560名が被害を受けました。

RTCでは従業員の90%にあたる480名の住居が浸水し、なかには通勤や買い物に出るための手段を失ったり、ライフラインが寸断されるなどの甚大な被害に遭った人もおり、通常の日常生活が送れないなどの状況に陥りました。1日でも早い復興支援のために、「タイ洪水被災従業員助け合いカンパ」を実施し、義援金を募ったり、また、ポートなどによる支援物資の配布も行いました。

CMAでは10月17日～21日の間、操業停止を余儀なくされましたが、24日には操業を再開し、生産遅延を挽回すべく、従業員全員で生産の追い上げ対応を行いました。また、シチズンマシナリーミヤノグループ各社では、食堂に設置した募金箱に多くのカンパ金が集まり、浸水被災者へのお見舞いと、徹夜の監視体制でCMAを水害から守ったメンバーへのお礼として、シチズンマシナリーミヤノの杉本社長より被災された従業員一人ひとりに義援金を手渡しました。

オールシチズンという考え方のもと、働く場所・国は違えど、同じシチズングループで働く従業員のために、少しでも役に立ちたいという想いから、グループ各社より、仲間である従業員や復興へ向けての支援が早急に行われました。

- 支援内容**
- RTCから被災した従業員の自宅へ水、食糧(米・カップ麺)、日用品をポートで1ヶ月間にわたり届ける。
 - RTC、中国関連工場より、従業員500人分の米20tの支援。従業員全員に渡るよう一人当たり40kgを配布。
 - 480名の被災者に対しRTC会社規定により一人当たり3,000バーツの義援金を支給。
 - シチズン時計グループ各社より3,325,619円の義援金。
 - シチズン時計より、ゴムポート4艘、毛布400枚を支給。

「従業員の姿が、私たちに勇気を与えてくれました」

この洪水で最初の被災者が確認されたのは9月上旬でした。ピークとなった10月末にはおよそ90%の従業員が被災をしました。それぞれが被災している環境のなか、自主的に出勤し土嚢積み、排水作業などを必死になって進めてくれた従業員の姿は、我々日本人を勇気づけてくれました。

ROYAL TIME CITI 代表取締役 尾曾 利彦

Voice





被災された従業員一人ひとりに義援金を手渡すシチズンマシナリーミヤノの杉本社長